

朝日新聞 2020年9月24日 「声」への投稿掲載

(令和2年度入学) 高校1年(六か年コース) D組 佐藤暖 君

今、中高生の間ではやっている若者言葉。泣いている様子を擬音語で表す「ぴえん」や「ぱおん」など、初めて聞くと困惑する。

私は流行にはあまり乗らないタイプで、服は着られればいいし、流行している歌も少し聞く程度。でも SNS はよく使う。同級生の SNS 投稿にはたくさんの若者言葉が出てくる。最低限は知っていないと置いていかれると思い、由来を調べるととても面白かった。

若者言葉は昔からあるようで、気づいたことがある。なるべくはやくを「なるはや」、超ベリーグッドを「チョベリグ」など昔は短縮することが多かった。

それに対し、「ぴえん」「ぱおん」など今は擬音や様子で表すことが多いようだ。今後どのような言葉がはやるのか。私は「ディスる」や「リア充」のように日本語と外国語が混ざった言葉が今まで以上にはやるのではないかと想像している。